輪中堤・宅地かさ上げ事業に係る説明会

日時・会場：

令和３年９月 25 日(土)	10:00	上流域（中津道地区、田上地区）	坂本中学校体育館
令和３年９月 25 日(土)	13:00	下流域（西部地区）	坂本中学校体育館
令和３年９月 25 日(土)	15:30	中流域（藤本地区・中谷地区）	坂本中学校体育館

○概要

球磨川本流沿い（一部支流沿い含む）で一部損壊以上の被害に遭った世帯、被災証明申請済みの事業所、市政協力員、自治会長、住民自治協議会役員を対象。事務局より輪中堤・宅地かさ上げ事業に係る説明、今後のスケジュールについて説明を行ったのち、質疑応答を行った。欠席者含む対象者全員に、住まい再建に関する意向調査を実施。

（1）事務局より説明

球磨川水系治水対策について

各地区の輪中堤及び宅地かさ上げのイメージについて

今後のスケジュールについて

（2）質疑応答

○質疑応答

≪上流域（中津道地区、田上地区）　参加者：45 名≫

【意見・質問等】
西鎌瀬：河川の掘削をやってもらっているが、上流から下流へ土砂・瓦礫などが流され、溜まったことが水位を押し上げた原因ではないか。河川掘削は予定されている 300 万立方メートルで完了ということになっている。しかし毎年小さな洪水が起こっているため、少しずつだが土砂がたまり、八代港の水深も浅くなってしまっていて、そちらも掘削の必要があると思う。定期的な河川の掘削や浚渫が必要なのではないかと思う。

【回答】
国：現在、今次災害で堆積した土砂の撤去を進めているが、引き続き水位を下げ被害軽減のため約 300 万の数字を示していており、掘削を実施していきたい。様々な洪水で土砂が流れてきているため、定期的に測量を実施しており、それを踏まえて維持的に掘削を進めていきたいと考えている。流域治水ということで説明したが、集水域全体で、上流についても治山事業、森林の整備保全や砂防ダムなどの関係機関と連携して総合的な対策を実施していく予定である。

【意見・質問等】
下鎌瀬：下鎌瀬のかさ上げ高は 2mとされているが、足りないのではないだろうか。今回の洪水で私の家は浸かった家の中では一番高い場所にあるが、床上 2mであった。床の高さが 1mあるため、地上から考えると 3mは浸かったということになる。市房ダムが決壊する可能性があり、もし決壊したらもっととんでもないことになっていた。かさ上げの目安が 2mである根拠を示してもらいたい。また、かさ上げの事業主体は国か県か市か、確認したい。仮に国が主体で 2mしかかさ上げをしないのならば、県や市で更にかさ上げ高を高くすることもできるのでは。加えて、瀬戸石ダムの現状と今後どうしていこうと考えているのかを知りたい。撤去しても良いのではないかと考えている。決壊の恐れがある市房ダムや、緊急放流があるかもしれないダムに関しては不信感しかない。本当に流水ダムが必要なのか、環境負荷を高めるだけではないか。

【回答】
国：かさ上げ高の算出根拠について。今後様々な対策を実施していくなかで、どういった水位低減効果があるのか、各地点で段階的に計算し、それを根拠として対策後の水位を算出している。例えば坂本地区の代表地点であれば対策により 1.4、1.5m程度の水位低減効果があるのではなかろうかと算出した。各地点で計算をして根拠として対策後水位として出している。瀬戸石ダムについて、昨年度の豪雨での出水後に管理者の電源開発が、安全性、ダムの影響、操作について等の検証結果をホームページで 2 月に公表している。それについては事前に河川管理者である国が確認したのちに公表している。ダムにより浸水が助長させるのではという質問であったが、大きな水位上昇は無かった、という検証結果である。現状は、再開へ向けて被災した発電タービンなどの補修を進めていると聞いている。

【意見・質問等】
西鎌瀬：西鎌瀬の寺院が浸かったが、回復することができたことに感謝する。保育園は移転先が見つかり来年の夏をめざして準備を進めている。中津道の故郷を忘れられないように、保育園の敷地にバンガロー等を作って、昼は坂本町に遊びに来るように、故郷に帰ってくるようにする計画を考えていることをお知らせしたい。災害時は、鉄橋が流され、市房ダムが緊急放流する情報があった時に、もうだめだ、市街地も浸水してしまうだろうと我々は諦めた。もし荒瀬ダムが残っていたらもっと大きな被害が出たのではないか、瀬戸石ダムが決壊したらどうなっていたのだろう、など考える。50 年以上球磨川の沿岸に住んでいるが、ろくなことがない。つまり人間が自然を甘く見ていることであり、ダムなど人の力で自然の力を止めることは無理である。中津道の山林は荒廃しており、大雨の度に山から土砂が流れ込み、球磨川が埋まってきている。毎年撤去しなければならないが、現実的には難しく、例え 2mの宅地かさ上げを行っても、豪雨があればいずれまた浸水するのだろうと思っている。西鎌瀬は以前も上げて、家を作ったが、それでも家が浸水した。大変な負債を抱えている。国がどうしようとかまわないが、大自然をコントロールしようとする人間の生意気さ、おこがましさを考えないと、孫やひ孫の世代にはより困難な状況になるであろうと思う。今回示されたかさ上げについては、今後中津道の地区それぞれで集まって話をすることになると思うが、個人の家ごとにかさ上げするということなのか、西鎌瀬なら地区全体をかさ上げするということなのかをはっきりさせてほしい。国が決めたことをやっていくのだろうと、私は何も期待していないが、その決められたことに対して何をやっていくのかという選択をしていかねばならないと思う。年齢的なこともあって、時間がないため、とにかく早く帰りたい。寺を守って後世に残していく責任がある。一刻も早く先のことを明確にしてもらい、地域を再興しなければならないと考えており、早く決着をつけて自分の死に場所を決めたい。一度荒廃している山を視察してみて欲しい。もう一点、国道については片側交互通行が続いているが、いつになれば解消するのか。道路が危険なため、女性や子育て世代が怖がって帰ってこない。早くしっかりとした国道を整備してもらいたい。

【回答】
国：河川事業としてできる部分については国で実施するが、県や市と調整して対応していく部分もある。示している図は、測量により各家屋の宅地の高さを把握し、対策後水位を踏まえ着色をしたものである。球磨川沿川では以前から宅地かさ上げなども実施してきており、コミュニティの維持などの観点から地区全体としてかさ上げするのが望ましいのではないかと考えているが、皆さんの意向を踏まえ市と連携し検討を進めていきたい。

【回答】
県：国道 219 号が片側交互通行になっており迷惑をかけているが、災害も道路被害も大きかったため、国に権限代行ということで災害復旧をお願いしている。まずは通行不可の状態からまずは片側だけでも通行できるように昨年度から応急復旧をしている。今後の本格復旧についても国で工事発注の準備を進めていると聞いている。工事が始まると通行止め等が実施されることも考えられるが、できるだけ地域の生活に影響を与えないような配慮も検討してもらっていると聞いている。

【意見・質問等】
破木：今後のスケジュール案について、対象地区ごとに設計が完了次第、との記載があるが、地区で説明する際に地区としては1～2mのかさ上げでは足りないといった意見が出たら設計を修正することはできるのか。住民の意向を反映して設計をやり直す機会があるのか、ないのであれば各地区に事前に説明してもらい、どういう方法で輪中堤なのか、かさ上げなのか、といった方向性を示し、地区の意見を聞いた上で設計に反映させてもらいたい。

【回答】
市：地区の意向はもちろん、個人の意見も重要だと考えているため、まずは本日配布しているアンケート調査にご回答いただきたい。今後、集落ごとに色々と意見がでてくると考えられ、地区ごとの傾向に応じてまちづくりをしていく必要があると考えている。意向調査の結果も参考に地区ごとに検討させてもらいたい。

【意見・質問等】
中津道：自宅が建っている場所が特殊で、玄関側が国道219号、裏側が球磨川である。国道219号が実際に1.5mほど浸水しており、浄化槽の建設について悩んでいるところである。家から20～30mのところに市ノ俣川の河口があるが、河口付近の橋の上流30mぐらいで倒木が詰まり、せき止められた水が国道219号に流れてくる状況だった。市ノ俣川の河口をどうにかしてもらわないと、また同じような被害が出ると考えられ、さらに深く河川掘削をするのか、砂防ダムを何重にも作るのか、そういった部分も含めて対応をお願いしたい。

【回答】
県：市ノ俣川の災害復旧については国に権限代行での対応をお願いしている。土砂と倒木が合流点付近にかなり堆積しているということで、昨年9月末までに土砂掘削と倒木の撤去を実施してもらった。市ノ俣川上流の枳之俣との分岐部分の山腹で大きな崩壊があったため、そこから大量の土砂と流木が出たことが原因ではないかと考えている。該当箇所については市で対応しているが、今後の砂防ダムや治山等の対策について、後ほど具体的な場所を教えてもらえれば、持ち帰り検討したい。

【意見・質問等】
西鎌瀬：かさ上げのスケジュールについて、既に公費解体が進んだところについては、先にかさ上げしてもらうことはできないのか。解体後、調査があるということで待っていたが、更地にしているため草が生えている。個別に早くかさ上げしてもらえればそこで住宅を再建したい。鎌瀬橋の架け替えについては、以前橋の位置について調査があったが、場所は決まったのか。また、橋の高さは従前どおりなのか、以前よりも高くするのか。

【回答】
国：解体済み家屋から個別でかさ上げ対応をしたらどうかということだが、近隣の方々や地区全体としてどうするのか、といった話をさせていただいたうえで詰めていったほうが良いのではないかと考えている。
県：橋梁についても多数が被災しているため、橋の復旧についても国に権限代行による対

応をお願いしており、橋の位置や形などについては国で専門家の委員会を設置して検討を進めているところである。災害に強いという観点から、球磨川の水の流れが当たる水衝部は避ける、また山がすぐ近くに迫っているため、斜面が崩れる恐れがある弱い部分は避ける、といった考え方で、鎌瀬橋については現在の橋の位置よりも少し下流側で整備するとのことである。橋の高さについては、治水対策を実施した対策後水位よりも高くするということで聞いている。また、橋の種類や形は専門家の意見を聞きながら国で選定していくとのことである。

【意見・質問等】
西鎌瀬：85 歳になる母が戻りたいといっているため早く帰したい。解体が終わって更地になっているが、輪中堤・かさ上げなどを行ったうえでいつになれば帰れるのか、住民のみんながいつ元の場所で生活を再開できるのかをはっきりさせてもらいたい。鎌瀬橋の仮橋ができたときに国道 219 号の下流側が崩落した。あのあたりで川の流れが変わっているため、掘削もよいが、そういったこともしっかりと確認しないと国道がますます危なくなっていく。

【回答】
国：市の資料のスケジュールにも記載されているが、国としてはプロジェクトの早い段階で輪中堤・宅地かさ上げを実施したいと考えている。ただし、皆さん個人、あるいは、各地区・集落の意向を確認しながら具体的な検討や用地調査を進めていく必要があるため、この場でいつまでとは伝えることができない。国道 219 号の下流の崩落による河川の流れの変化については、流速や流向なども計算しながら、しかるべき対応を行って復旧を進めていきたい。
県：鎌瀬橋下流の国道 219 号については、昨年の水害では被害がなかったところの護岸が崩れたものである。このように後で壊れる事も有るので、道路の護岸で被害がなかった部分についても弱い部分がないか国で現地調査を実施しているところであり、弱い部分があればそこについても対応していくことになる。

【意見・質問等】
下鎌瀬：ソフト対策の「逃げ遅れゼロ」に向けた取組みということで、防災拠点を右岸・左岸に 1 箇所ずつ確保していくとの記載があるが、防災拠点はどういったものを想定しているのか。災害公営住宅については 10 月中に候補地を決定するとのことだが、中津道では地区の集会場も被災しているため、災害公営住宅とあわせて中津道地区の集会場も整備するようなことは考えられないか。今回の水害では中津道地区の一次避難場所となっているかわたけ保育園が浸水した。中津道社会教育センターは避難場所に指定されていないが、耐震性の問題はあるものの、実際に数十人が避難しており、災害の種類別での対応なども考えられるのではないか。以前から要望しており、スピード感をもって対応してもらいたい。今次災害では坂本支所も被災したが、災害発生時に上流の人吉市や球磨村等との連絡体制はどうだったのか。

【回答】
市：防災拠点について、現時点で何か話ができるようなところまで検討が進んでいないが、避難できる場所や支援物資が備蓄できるような場所など、坂本町にどのような防災拠

点が必要なのかをしっかり考えて整備の検討を進めていきたい。自治公民館の再建については今年の 1 月に説明会を開催し、6 月には 6 つの公民館で再建支援が決まったと聞いている。中津道については意見があったことを担当課と共有した上で、自治協議会等も交えながら対応を検討していきたい。中津道社会教育センターについては、市関係課かいで耐震または避難所としてどうするのかを検討しているところである。人吉市・球磨村との連絡体制いついて、球磨川水系の流域自治体では連携して被災状況などを適宜情報共有する体制を構築している。7 月 4 日はインターネットが途切れてしまい、電話にて上流で氾濫が発生した等の情報を受けていた。

【意見・質問等】
下鎌瀬：中津道の集会場は球磨川沿い国道の下方側、阿蘇神社の隣に位置している。災害公営住宅の候補地は 10 月頃に考えているとのことだが、上の方に同時に設置は可能なのか。

【回答】
市：災害公営住宅と公民館をセットで整備できるか、について、同じ敷地内で整備することは可能であると考えられるが、災害公営住宅と地区の集会所では整備のための財源が違ってくることに留意が必要である。

【意見・質問等】
下鎌瀬：中津道社会教育センターは検討中とのことだが、要望を出して数年間現状のままである。幸い死傷者は出なかったが、命がけで避難をして一晩過ごしたという住民もいる。そういうことを肝に銘じて取り組んでいくようにしてほしい。

【回答】
市：スピード感を持った対応ということで、肝に銘じて対応をしていく。

【意見・質問等】
中津道：県道のかさ上げ、引堤工事が並行して進められていたが、災害後にストップしている。国道、河川、橋の問題があると聞く。鎌瀬橋が従前よりも高くなるのであれば国道もかさ上げすることになると思うが、その場合、沿道の宅地はどのぐらいまでかさ上げしてもらえるのか。現状の鎌瀬橋周辺は全て更地になっている。

【回答】
県：国の検討の中で決定しているのは橋の位置と、橋の高さを上げることであり、詳細な設計はこれからである。橋の高さが上がれば道路の高さも上がるが、どのぐらいの範囲に影響が出るのかは今後の検討となる。橋の高さにあわせることはもちろんだが、周辺の宅地かさ上げの高さなども考慮しながら道路の高さも決まってくるものと考えられる。また橋桁が異なるため、橋の種類で路面の高さも変わってくる。橋の種類を含め詳細が未定のため、本日どの高さまで上がるかを明言できないが、これから宅地かさ上げを含め詳細設計が進んできた段階で改めて地域の皆さんに説明する場があるのではないかと思う。時間がかかってしまい申し訳ないが、現状の進捗である。

【意見・質問等】
破木：かさ上げの高さの目安の図を見たが、かさ上げの高さよりも、洪水の水位のほうが高かった。現在調査しているものは、敷地の地盤の高さを調査していると思う。かさ上げしてその上に家を建ててもまだ水没するため、そういった部分については個別に調査をしてもらえるよう検討してもらいたい。

【回答】
市：緊急治水対策プロジェクトの実施で洪水時の水位が下がることになるため、それを目安にかさ上げを実施したいという趣旨で目安の高さを図面として示している。豪雨災害を経験したため、不安は十分に理解できる。場合によっては高台への移転などについても話題として検討していただきたい。個別の調査対応については、今後地区の意向を決めていただいたのち、更なる調査、測量が必要になるため、その際に示すことができるのではと考えている。

【意見・質問等】
下鎌瀬：下鎌瀬、西鎌瀬、中津道の計画高水位を教えて欲しい。かさ上げの高さについては地区で決めてもよいのか、地区の要望があれば応じてもらえるのか。計画高水位については川辺川ダムの効果も入っているという理解でよいか。鉄道についてのかさ上げの話が出ていないがどうなっているのか。

【回答】
国：具体的な計画高水位を示してほしいとのことであるが、本日は手持ち資料がないため、後日違う場で改めてさせていただきたい。計画高水位とは、あらかじめ決めている水位であり、それを目標としてやっていこうというもの。対策後の水位については、掘削や遊水地、流水型ダムなどを実施した場合の水位を対策後水位ということで示している。鉄道については復旧費を試算しているといった新聞報道があったが、それ以上の情報はもちあわせていない。

以上

≪下流域（西部地区）　参加者：34 名≫

【意見・質問等】
古田：古田地区の対岸の今泉地区で現在護岸工事を実施しているが、時代に逆行しているのではないか。川幅が狭くなって流れが大きく変わり、増水時には古田側の県道側を削っていくような形になっている。宅地かさ上げに対する金銭補償については一部補償なのか全額補償なのか。また不動産価値が 1000 万円の家屋をかさ上げするとなるとどういった計算式となるのか。

【回答】
国：古田地区の対岸の下今泉について、暫定的に土砂を盛って浸水を防止するということで施工しており、本施工ではない。本改修に際しては改めて地元と調整させてもらいたい。宅地かさ上げに対する金銭補償について、全額補償か、一部補償かという質問だと思

う。例えば公費解体等で既に更地になっている土地をかさ上げする場合は、工事費の全額を国で負担して実施する。建物が残っている場合は、建物を上げる補償費用と、残っている建物の現在価値を比較して、低い方の金額を補償する。例えば、建物の価値がかさ上げの補償費より低い場合は、全額ではなく一部の補償になる、ということで解釈いただければと思う。

【意見・質問等】
今泉：資料を見ると、下今泉でレッドゾーンに含まれているところが 2 軒あるが、建替えはできないということか。

【回答】
市：資料が赤黒の 2 色での印刷になってしまっているため、赤色で印刷されている部分がレッドゾーンという事ではない。一般的な話にはなるが、レッドゾーンとは土砂災害特別警戒区域で、災害時に土砂など何らかの物理的な力が加わることで建物に被害が出る懸念があるということ。制限はあるものの、擁壁や鉄筋コンクリート造の建物構造など、安全性を確保する対策を実施すれば建築は可能である。

【意見・質問等】
今泉：現在、護岸工事をやっている箇所について、護岸の高さをもっと上げて輪中堤に変えていくということはあるのか。

【回答】
国：現在の下今泉の工事は、あくまでも暫定的に浸水を防止するためのものであるため、今後どういった形にするのか、輪中堤なのか宅地かさ上げなのか、といったことについては協議させてもらいながら進めていきたい。

以上

≪中流域（藤本地区・中谷地区）　参加者：110 名≫

【意見・質問等】
大門：災害公営住宅を希望しているが、藤本・大門地区ではどのあたりへの整備を予定しているのか。自身が大門に畑なども持っており、できれば近くに整備してもらいたいと思っている。大門と合志野は輪中堤ができているが、7 月 4 日は大門も合志野も堤防の内側から水が入ってきて川のようになり、道から遠い家の 2 名が亡くなっている。大門は立派なものができたため、安心してこの程度の雨なら大丈夫という気持ちだったと思われる。しかし水位が上がるのが早く、自宅は国道 219 号と同じぐらいの高さだが、2m以上浸水して全壊した。なぜこんなに早く水位が上がったのかを考えると、人吉から八代までの間に谷川がたくさんあるが、今はとにかくスギやヒノキの伐採が進んでいた。テレビ局の報道にもあったが、違法伐採もあり裸山が多くなっているため心配である。伐採された木の根が腐ると山が崩れるため、今後そういったものによる被害もあるのではないかと思う。温暖化で雨の量が多くなり、球磨地方は線状降水帯も発生しやすい場所であるという話も聞いており、それが本当だとすると、今後、坂本あたりはもっとひどい被害が出るのでは

ないかと想像している。もっと早く輪中堤ではなく、かさ上げをお願いしたい。

【回答】
市：災害公営住宅の建設候補地について、市の説明資料にある通り、現在、建設候補地についての現地調査を実施して課題等を整理中であり、10 月中に選定することを予定している。

【意見・質問等】
合志野：自宅が二階の床下まで浸水して一階は全滅した。合志野地区についてはかさ上げになるという噂を聞いていたが、どういう形になるか分かってから再建や立ち退きなどを決めようと考えていた。今回の説明ではかさ上げではなく輪中堤を作るということで説明を受けたが果たしてそれで大丈夫なのか。以前開催された説明会で、坂本橋から上流側については 3mかさ上げする予定であるという説明を受けた。坂本橋の下流についてはどうなるのか質問したが、それは自分たちの管轄でないから知らない、という回答で、これから現地を確認したのちに決定するとの回答であった。4 軒ほどが既に再建しているがそのあたりはどのように考えているのか。また、坂本支所周辺を 3mかさ上げするというのは決定事項なのか。

【回答】
国：輪中堤もしくは宅地かさ上げということで説明しており、どちらがよいのかについては皆さんの意向や地区ごとの事情などを聞きながら決めていければと考えている。全国的に災害が頻発している中で、豪雨で倒木や土砂災害をともなう災害も増えているため、流域治水ということであらゆる関係者が連携して、河川だけではなく森林整備の治山や砂防ダムなども含めて流域全体で、また関係法案も活用しながら各関係省庁とも連携して、取り組んで行くという形で対応できればと考えている。
市：坂本支所再建については、できるだけ早期に住民に支所建設位置を示すということで公表しており、現地付近については治水対策で安全性が高まるという前提であり、また、支所は災害時の防災拠点としての役割もあるため、より安全性を高めるために 3m程度のかさ上げを行う方針を示している。場所は概ね現地付近ということで、先日イメージ図も公表している。現在、測量設計に入っている。今後詳細に、3m程度となっている具体的な部分や、実際にどの範囲でかさ上げが必要になるか、坂本支所の建て方等も含めて検討していく必要があると考えている。坂本橋の本復旧については、国が権限代行でかさ上げ等を実施していただくことになるため、詳細の場所は不明であるという回答を行った認識であった。具体的な場所については、また相談させていただきながら進めさせてもらいたい。

【意見・質問等】
小崎辻：災害公営住宅に 34 世帯の申し込みがあったということだが、現在八代市内に居住されている方の申し込みか、あるいは他県等に避難されている方や坂本にまた帰ってきたいという方も含まれているのか。「逃げ遅れゼロ」に向けた取組みのなかで、これまでも数回高齢者避難情報等も出たが、実態にそぐわない情報であると感じた。高齢者が多いため、山道を避難すること自体にリスクがある。少し雨が降ると高齢者避難情報が出るが、自治会長としても判断に困るところである。7 月 4 日の豪雨を経験した人が納得する

ような避難の情報を出してほしい。去年の災害以降、避難しようと言えるような雨は降っていないため、少しの雨で避難をするように言われても、知事が言う「逃げ遅れゼロ」に納得はするものの、実際に 80 歳、90 歳の人が必ず便利な場所に住んでいるわけではなく、避難路は山道である。先ほども言ったが、山道を高齢者が避難することがリスクである。本当に避難が必要だという決定的な情報は難しいにしても、安心というか、確定的な情報を流していただきたい。避難所を数回見に行ったが、避難はしなかった。去年の状況と比較すると、避難しようという雨ではないと判断する。

【回答】
市：災害公営住宅については、発災時に坂本町内に在住しており、半壊以上の被害を受け、り災証明を発行され、解体済みもしくは解体予定の方が対象となる。34 世帯は災害時に坂本町に在住していた方である。災害時の避難情報について、高齢者避難情報が実態に即していないのではないかという指摘であるが、現在、避難情報の判断は気象台等の気象情報や国の河川情報をもとに避難情報の発令をしている。本年度は昨年の豪雨災害を踏まえ、暗くなった真夜中の避難は非常に危険が伴う可能性があるため、その時点では雨が降っていなくても明るいうちに避難していただきたいため、高齢者避難を出させていただいた。しかしながら、狼少年になってはいけないため、引き続き情報の出し方などについては検討したい。

【意見・質問等】
荒瀬：一年少々過ぎ、計画が出てきた。何度も疑問を持って地域から質問が出てきたことがあったと思う。水をゆっくり流すという流域治水の概念を取り入れるということで大変喜ばしいことである。遊水地案が提示された時には、やっとこういうことが情報の中に出てくるものだと大変嬉しかった。坂本からも市のパブリックコメントや懇談会等で国や県がいる場で坂本地域の引堤について要望を出したつもりであった。つもりであった、と表現せざるを得ないのが大変心苦しい。今回のプランにも引堤案が一切ない。懇談会で市が様々な所に出したということで、前回の説明会の時に、国に尋ねてみた。坂本地区で引堤を計画した所は現在あるか、坂本地区で引堤の要望が出ていることが市から要望として上がっているか尋ねた。私は出ているものと思っていた。計画の途中であると思っていた。ところが 2 週間少々過ぎてやっと回答が出たと思ったら、市から引堤の要望は上がっていない、意見としては上がってきている。意見では計画に反映されないのである。要望として上げたつもりであったものが、矮小化されて意見としか届かない。もう一度言う。何度も言わなければならないと思っている。坂本地区だけでなく、球磨川流域全体で歴史的に土地利用の形が変わって川幅を狭く高くしていく工事が長年に渡って続けられてきた。これは事実である。誰が悪いというものではない。そういう風にやるということで、進めてきた文化としての形であると思う。その結果、地域の声で、川幅を狭めるのが怖いと言ったところでも、先ほど奇しくも国が言った通り、前の水害で輪中堤かさ上げをするということを実施してきた。結果、地元の方がかさ上げした、川幅が狭くなって怖いのだという声は黙殺されたまま川幅が狭くなってきたものがあった。歴史的に川幅がどの幅であったかということを今一度検証してもらい、引堤できる場所を坂本地区でも策定してもらいたい。これはひいては八代平野に暮らす人の安心・安全に繋がる事であると認識している。一回も検証されていない、引堤をしたらどうなるのか、水位高がどれだけ下がるのか等が現在一回も検証すらされていない事実を今日ここで共有したい。その上で、再び、三度、

四度言い続けないといけないと思うが、引堤の可能性のあるところを、歴史を紐解いて今一度プランを見直す形で検証してもらいたいという要望をまず一点出したい。同時に質問としては、なぜこの要望が現在まで計画の中に策定されていないのか、その仕組みについての回答を今この場で、この場が不可能であれば文書にて、ホームページにて回答してもらいたい。引き続き質問、移転再建、市が示した資料の中で、移転促進区域内の土地の買収という文字が出ていた。これは一歩前進したことではなかろうかと思うが、例えば、道の駅の対岸の用地を買収して、引堤に切り替えることをすることが可能であるのか。実はこの計画はやればすぐできる。ダムができるよりずっと早く対岸の水位を下げることができる工事である。難しい設計は必要なく、ただ引くだけである。元の川幅に戻してもらうだけのことである。地域の声を丁寧に聞けば、そこだけではなく、複数箇所そういう場所が出てくると思う。引堤できる箇所を今一度精査する、そのタイミングはどこにあるのか。その声はこのまま黙殺、無視されていって、更に川幅を狭めていく輪中堤の可能性しか計画が届かないのか、それを質問したい。真摯な回答をいただきたい。毎回毎回、この回答はまともな回答をもらったことは一度もないという認識で大変悲しい。なぜそういう形になってしまっているのか、流域治水という言葉の中には引堤も堂々とうたわれている。なぜ中間流域ではその用地が難しいと、少ないということで検討の対象にもならないのか。住民の声として、昔の川幅に戻してくれという要望は、引堤要望ではないのかということを改めて質問する。何度も言わなければならないことを大変悲しく思う。真摯な回答をどうかよろしくお願いしたい。

【回答】
国：前回の流域治水の説明会の際にも同様の質問をいただいた。過去の航空写真等で確認してみたが、道の駅のところの川幅については、昭和 23 年当時と現在で大きく変わっていない。引堤について、坂本町は非常に平地が少ないところであり、そういった平地をしっかり活用する形で、宅地のかさ上げを主体に河川改修を行ってきたところである。そういった経緯も踏まえて、今回のプロジェクトにおいても輪中堤と宅地かさ上げ工事という手法で提案させていただいている。皆さんに協力いただき地盤高等を確認し、概ねの高さを本日皆さんに見ていただいている。また防災集団移転促進事業で、市が被災した宅地を買い取るという事業。今回宅地かさ上げの概ねの高さや、範囲を示した。集落によっては、洪水を経験され、不安だということで、例えば集団的に高台に移転したいというまとまったご意向があり、移転先が 5 戸以上まとまれば、事業の適用が可能であるため、今後復興まちづくりを進めていく中で、地域の要望をお聞きして集団移転についても検討をさせてもらいたい。

【意見・質問等】
坂本：河川事業におけるかさ上げに関する補償内容のなかで、宅地かさ上げの金銭保証は、建物の現在価値を考慮した上でのものとなっている。実際にかさ上げ業者が出した見積もりと、補償金の差額があまりにも大きくなってしまった場合、我々はどのように対応すればよいのか。

【回答】
国：宅地かさ上げ費用についてはいくつかの業者に見積もりを取って単価を作っていくため、大きな差異は出ないと考えている。建物の現在価値とかさ上げ費用を比較して、安い

方を補償する。現在の建物の価値よりかさ上げ費用の方が上回る場合、考え方の一つとして、今ある建物を解体して、同じ土地に新しい建物を建てる構内再築というものがある。構内再築に関しても補償率があり、かさ上げ費用と構内再築の補償額を比較し、安い方を補償する。

【意見・質問等】
藤本：7 月豪雨以来、市のホームページ上には豪雨に関するリンク先が見当たらない。人吉市や芦北町はホームページのトップページに豪雨に関する案内事項が必ず表示されるようになっている。また、市のホームページは熊本地震に関するページはあるが、なぜ豪雨に関するページが見当たらないのか。

【回答】
国：現在、八代市のホームページを開くと一番目立つところには新型コロナウイルス関連の情報が出てくるが、その後少し時間が経つと豪雨関連情報のバナーが表示されるようになっている。そこをクリックいただくと市役所関係各課が出している豪雨関連の情報を随時更新している。ただし指摘の通りトップページに出てこないタイミングもあるため、工夫できるところがあれば工夫して多くの方に情報を届けたいと思っているため、持ち帰り検討させていただきたい。

【意見・質問等】
藤本：輪中堤やかさ上げとなるとそれなりの時間がかかるのではないかと思うが、再建するまでの間は引き続き仮設住宅やみなし仮設住宅で暮らすことは可能か。可能でないと困る。藤本地区では数年前に国が輪中堤とていして堤防をつくってもらったが、今回はそれを超えてきたためどうしようもなかった。球磨川に流れ込む谷川からの水で予想以上の浸水があったため、輪中堤にするのかかさ上げにするのかについてはそのあたりの反省も踏まえて検討してもらいたい。

【回答】
県：宅地かさ上げ等の公共工事の影響で自宅の再建ができない場合には、熊本地震など他の大規模災害でも仮設住宅の供与期間の延長が認められてきた経緯があるため、今回の豪雨災害に於いても同様に延長が認められるように現在国と協議をしているところである。現段階で明確に答えることができないのが心苦しいが、県としても国に延長を強く要望していきたいと考えている。谷川からの内水の影響であったとの指摘だが、調査を行い、実際の宅地の高さを提示させてもらった。そういった事情も踏まえながらどのようなやり方が一番良いか、地元の方と話し合いながら進めていきたい。

【意見・質問等】
荒瀬：先ほど質問でもあったが、昭和 23 年の航空写真と照らし合わせた結果、川幅はたいして変わっていないとのことで回答があった。しかし、現在道の駅がある場所は、以前はスッポンが獲れるような川だったことは周知の事実である。合志野の下流には有名な瀬があったが、現在はそこに水は流れずに毎日大量の土砂が堆積している。なぜそこに土砂が堆積するようになったのか説明してもらいたい。熊本県は防災ラジオの普及を推進しているのに、市は採用しないと決めた理由を教えてもらいたい。

【回答】
国：合志野の下流で土砂堆積の理由は難しいが、恐らく河道が湾曲しているところに土砂が堆積している状況ではないかと思う。詳細は確認しないと正確な回答はできない。河道の掘削をやっていく中で、そういった状況も踏まえながら河川工事を行っていきたい、またどういった要因で土砂が堆積するのかも確認していきたい。
市：防災ラジオを導入しない理由について、避難情報の伝達の方法については発災前からどのようなものを導入するのかの検討を行った上で現行のシステムに決定し導入した経緯がある。

【意見・質問等】
荒瀬：なぜ八代市では防災ラジオを導入しないのか。

【回答】
市：市の現行システムは防災ラジオで発信することができなかったことが理由である。

【意見・質問等】
中谷：宅地のかさ上げや輪中堤をしていくときに、国道や県道はどうなるのか。また駐車場などはどのようになるのか。

【回答】
県：宅地がかさ上げされた場合に家の出入りが不便になるのでは、という懸念だと思うが、地区でかさ上げするという形になればそれにあわせて道路の高さも検討していくことになる。道路の応急復旧も含めて、県から国に権限代行で設計や実際の工事をお願いしていて、今日承った意見についても伝えていく。県でも復旧・復興プランを策定しており、その中では災害に強い道路、生活しやすい道路ということでは市と同様重要に考えている部分である。道路の高さに関しても、生活再建や宅地かさ上げにあわせて検討していくこととしている。

【意見・質問等】
坂本：防災カメラが近くだと中谷橋に設置されているが、遠くて見えない。大雨などの際に道路の状況等が早く確認できるように、カメラの設置場所を各地区にひとつ、ふたつ増やしてほしい。合志野地区であれば、対岸から合志野地区全体を見ることができるような、大門・藤本地区だったら国道 219 号を見ることができるカメラを設置してもらえると、川の水位がどの程度上がってきているのかすぐに分かり、外に出て川の状況を確認しにいく必要がなくなる。かなりの台数になると思うが設置してもらい、可能であれば夜でも見ることができるカメラが必要ではないかと考える。上流の鮎帰地区であれば、何かあれば坂本の道を通って八代市街に向かうことになるため、坂本の道路状況を確認したい、ということもあると考えられる。球磨川に沿った場所でのカメラ設置を検討してもらいたい。また、カメラの画像についてはインターネットだけではなく、ひこいちテレビなどでも見られると、すぐに確認できる。どうか検討をお願いしたい。

【回答】

国：国でも河川を監視するカメラを流域で50箇所程度設置しており、ホームページ等で公開している。増設の要望なども上がってきているため、あくまでも河川の監視ということになるが、可能な限り確認が必要なところについては増設を検討していきたい。

【意見・質問等】
坊ノ木場：防災集団移転については5軒以上まとまれば事業が適用できるということだが、地域コミュニティというものがどういった範囲でまとまればよいのか。藤本地区単位なのか、更に小さな片岩など集落単位なのか。今回球磨川本流沿いの話しか聞けていないが、我が家は油谷川沿いである。そこもかさ上げするという話が出ているようだ。もしかしたら今回の話からずれるかもしれないが、本日の資料の輪中堤・宅地かさ上げの目的の中では従前の居住地で再建する意向のある方を対象にしているとある。例えば、昨年の水害で被災されて、ほぼほぼ解体されている方が多いが、元に戻っている方が4軒くらいあるようだ。例えばその4軒の方が、かさ上げしません、という要望を出すと、そこはかさ上げしないのか。あるいは、そういった要望でも、もしかしたらまた水害があるかもしれないということで、かさ上げ事業がそのまま進んでいくのか。そこら辺を質問したい。

【回答】
市：防災集団移転については、災害が起こり得るのであろう場所にお住まいの方々が被災しないように、予め移転しましょう、というのが制度の趣旨である。ある程度その場所は危険な区域であることを面的に指定することが必要である。つまり、この地域は危険ですよね、という地域にお住まいの方が対象となり、また場合によっては、移転を望まない方も出てくるため、小字等は関係なく、一定の集落で移転しようとした場合にそういった制度を利用できるということ。移転先は5戸以上が必要だが、移転元の場所についてはバラバラでも構わない。危険性が高い場所から1戸で移転したが、移転先が5戸以上集まっていればよいということになる。今回は広い範囲で浸水被害が生じており、そういった場所は対象になってくる。
県：県が管理する支川についても、対策後水位で影響があるところについてはかさ上げの対象になるということで、今回は県が管理する油谷川、中谷川も本流と同じ形で図面も示しているため確認をお願いしたい。かさ上げの対象となる地区の中でかさ上げを希望しない場合はどうするかという部分はケースバイケースであるため、皆さんの意向を聞きながら検討していきたい。

【意見・質問等】
合志野：宅地をかさ上げする際には、今回浸かってしまった道路も八代からすべて一緒にかさ上げしてもらわないと生活できない。宅地に合わせて道路もかさ上げしてもらえるのか。

【回答】
県：道路のかさ上げについては、当然避難路という意味での道路という部分もあり、また、生活道路としての道路という部分もある。そういった機能に応じて災害に強くする、強靭化を図っていくのが県の考え方であり、その中で高さは一つの重要な要素であると考えている。本日はまずは宅地部分の高さの説明があり、今後、皆さんのご意向で地区の高さも決まってくるため、その生活再建をベースにして道路の設計を行っていくということ

で、本日からまた新たにスタートするということになる。現時点で道路を上げる、上げない等、断定的なことは言える状況にないことが心苦しいが、今後生活再建に合わせて道路の強靭化についても設計を進め、復興まちづくりの会議等で改めて説明する機会があると思う。県としても道路を災害に強くするという目標で進めていく。

【意見・質問等】
坊ノ木場：三点聞きたい。職業柄、道の駅さかもとを訪れる方から聞かれることが、なぜ坂本流域だけ、特に瀬戸石駅周辺、或いはもちろん荒瀬、合志野も入っているが、建物が本流の流れで押し流されるような破壊的な流れがどうして起きたのか聞かれる。つまり人吉・球磨・芦北の方ではそういった被災はないと、一部あったとしても山からの土砂崩れである。これをまずシンプルに答えていただきたいのが一点。坂本地区だけ本流沿いでなぜ家屋が流され、流失される、或いは瀬戸石駅のようなコンクリート構造物がなぜ跡形も無くなくなっているのか。なぜかというと、そういった反省やメカニズムの解明がないとかさ上げをしようが、輪中堤を作ろうが安全には繋がらないと思うからである。その反省、メカニズム。ひいては、坂本支所の位置だが、あそこがなぜ孤立してしまったか、そのメカニズム、反省ができていて、それを踏まえてもなぜその場所に作るのかをシンプルに答えていただきたい。三点目、自宅が油谷川沿いにあった。国が説明した資料、球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの油谷ダムは赤い点線で囲まれていて、「事前放流支援に対する河川改修（県)」と書いてある。前々回のある説明会でも質問したが、ここの日本語が分からない。「事前放流支援に対する河川改修（県)」について教えてほしい。

【回答】
国：今次災害での洪水の流量や流れの向きや速さなども加味しながら災害復旧や宅地かさ上げ等事業を実施していく必要があると考えている。上流の球磨村でも家屋等の壊滅的な被害は発生している。中流部はどうしても蛇行して流れているため、その影響によって流速が速くなる場所が出てきている。そういった部分については、どういう場所で流速が早くなるかといったこと、学識者の意見も踏まえながら検討しているところである。そういった水理的な事象を踏まえながら対策を講じていきたい。
市：坂本支所の再建位置について、先ほどの説明と繰り返しになるが、球磨川水系緊急治水対策プロジェクトによって水位は下がり安全性が高まることが前提であり、3m程度のかさ上げを実施することで、ある一定規模の水害にも対応できるであろうと考える。昨年度の復興計画検討の中や地区別懇談会やパブリックコメントを通じて、支所再建に関する意見の中で一番多かったのが、やはり現地付近での再建であったのがポイントである。高台に移転するということもあったが、有識者検討会の中で、坂本町は高齢の方が多いため日常使いといった面も考慮していかねばいけないだろうという意見があり、現位置付近での再建を決定させていただいた。また今後気候変動による大きな雨も心配されるというものもあり、災害への対応という部分に関しては、支所とは別に、いざというときのための新たな防災拠点というものも坂本町の中で考えていきたい。

【回答】
県：「事前放流支援に対する河川改修（県)」の記述については、以前同様の質問をいただいたが、うまく説明できなかった。流域治水プロジェクトということで、流域のあらゆる関係者が協働し、治水対策を推進する、ということで、国、県、市町村が連携して取り組

んでいくということを資料に記載している。赤く枠で囲っている「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」というものがあり、「〇河川区域での対策」がある。最後の３つめの「・」で「・利水ダム等６ダムにおける事前放流等の実施、体制構築　等」とあり、球磨川水系に利水ダムが６ダムあり、事前放流というのは何かというと大雨が降ると予測が出た場合は利水ダムが持っている利水容量の部分を先に少々放流を行い、洪水調節になるような、できる限り水を貯めて、下流を守ることができないかということでこういう協定を結び、取り組みを行うということである。油谷川については、ご存じの通り油谷ダムがあり、令和２年７月豪雨後に治水対策を検討するにあたり、浸水被害のあった支川等の調査を実施した。油谷川下流は流下能力が悪い、というか流下能力が低い部分も点在しているため、河川改修でそういった部分を改修して事前放流に備えるという意味合いでの今回こういうタイトルで流域治水プロジェクトの中に記載している。確かにご指摘の通り「事前放流支援に対する河川改修（県)」ではちょっと意味が分からないと言われるのはごもっともであり、我々の方ではそういう認識で動いていたが、住民の皆様にうまく伝わらなかったことは反省しなければいけない点である。

【意見・質問等】
藤本：新聞報道によると、球磨村の神瀬地区では従前より堤防が 5m ぐらい上がるということだったが、居住する藤本・大門地区には同じように堤防ができている。しかし地元に対し説明がないためどのくらい上がるのだろうかといったことが全く分からない。河川堤防がかさ上げされるときに家が工事の範囲にかかる場合は補償をしてもらえると思うが、藤本・大門地区については、そのあたりの地元説明がない。家を取り壊せば市から 300 万を補償されるが、工事の範囲にかかる場合は更に多額の補償、300 万程でどうだろうかと思うが、そういった補償はできるのか。既に波線にかかっているのに、何件も取り壊しを進めているが、そういう補償問題が済んだ後に取り壊しをしているのかは不明である。このことについては地元での説明会が必要ではないかと思う。未だにそういった説明会がないため、判断ができない状況である。

【回答】
国：皆さんにご協力いただき調査ができ、今回かさ上げの高さの目安を示しているので、後ほど図の見方などを説明させていただきたい。今後のスケジュールにもあるとおり、再建調査や復興まちづくり計画、事業の検討なども進めながら地元に説明する場を設けたいと考えている。

【意見・質問等】
坂本：鉄道鉄橋がある油谷川の河口は、以前から年に１回ぐらいは冠水する。今年は２度程冠水した。今回の資料を見ると、掘削する場所に含まれていないようだが、土砂が堆積してガードレールより高い位置にあるような危険な状況である。支流については今後土砂撤去や掘削は予定しているのか聞きたい。

【回答】
県：油谷川の鉄道鉄橋の下の土砂堆積についてのご指摘だが、本日は担当となる部署も来ているため、後ほど具体的に話をお聞きできればと思う。

以上